

東国最大の古墳

群馬中央中学校

1年2組

NAME

高橋 結愛

「返却希望」

1 きっかけ

- 夏休みの宿題で「東国文化について」のレポートが出て初めて「東国文化」を知りました。
- 群馬県で一番大きな古墳が太田天神山古墳だと知り、詳しく調べてみたいと思ったからです。

2 調査方法

- ① 太田天神山古墳・女体山古墳・茶臼山古墳
⇒ 実際に現地へ行き、どのくらいの大きさか、形はどうなのかなどを調べる。
- ② 新田荘歴史資料館
⇒ 天神山古墳などから出土したものを実際に見る。
- ③ 本・インターネット
⇒ 現地調査・資料館でわからなかったことなどを調べる。

3 調査結果

- 「東国文化」とは、古墳時代から平安時代にかけて現在の関東地方で栄えた文化のこと。
- 群馬県は、12000基を超える古墳が造られたと考えられており、太田市にある東日本最大の太田天神山古墳をはじめとして、100m以上の巨大古墳も数多く造られた全国屈指の古墳大国。
古墳時代には「上野野国」と呼ばれ、豊富な資源や、朝鮮半島から伝わった最先端の文化・技術を持ち、東国文化の中心として繁栄していた。
当時の日本は、奈良・大阪などの畿内地域が政治・経済・文化の中心でした。この地域を治めるヤマト王権は、東国と良好な関係を維持したいと考えていたため、経済・文化的に東国を「ト」する「上野野国」を重視していきました。

県内には、ヤマト王権とのつながりを示す大型の前方後円墳や豪華な副葬品など歴史的な遺産が数多く残っています。

群馬県の古墳の大きさ TOP3

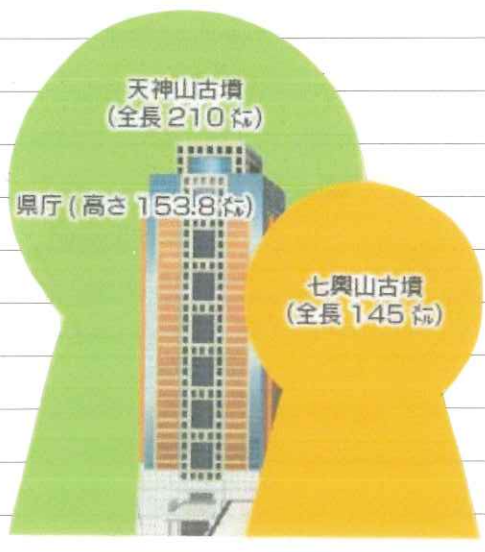
- ① 太田天神山古墳 太田市
- ② 浅間山古墳 高崎市
- ③ 円福寺茶臼山古墳 太田市

古墳時代全体を通じた大きさでは全国26位だが、時期を細分けて同時期の古墳で比べると、全国第2位になる。

太田天神山古墳ほどのくらいの大きさなのか？

墳丘の、前方部は幅126m 高さ12m、後円部は直径120m 高さ16.8m。さらに二重の周堀を含めると、長さ355m、幅285mという広大な面積になる。

古墳の大きさ

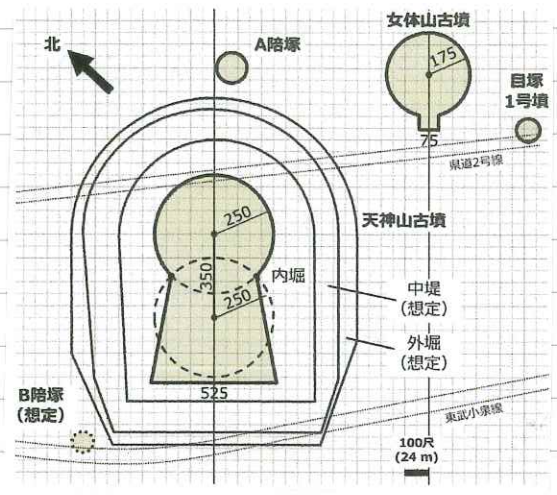


- 太田市内ヶ島町にある、5世紀前半(古墳時代中紀)に造られた前方後円墳。平らな土地に土を積み上げてこの巨大な古墳を造っており、大がかりな土木工事を行なった当時の支配者の権力の大きさがうかがえる。

- 天神山の名は、後円部の頂上に古くは天神様をまつる天満宮の社があったことから。男体山古墳とも呼ばれ、国の史跡となっている。

※210mの巨大な大きさを誇る東日本最大の天神山古墳。この古墳にはヤマト政権と強い繋がりを持つ毛野国を支配した強力な首長が眠っているといわれている。

〈実際に見に行つた写真〉



〈上空から見た写真〉



埋葬施設はすでに盗掘されており、長持形石棺の一部が転落していました。まわりには二重の周堀(内堀・外堀)が巡り、北東と西に*陪塚をもつ、南北約345m・東西325mにわたり、墓域が形成されています。平成20年度に実施された南東側外堀の調査で、外堀の幅が細く狭まる状況が確認されました。

この古墳からはこれまでに家形埴輪や水鳥形埴輪(頭部)などがみつがっているほか、後円部の頂上には器財埴輪が、中堤帯には円筒埴輪がそれぞれ置かれていたと考えられます。

史跡 天神山古墳

●所在地 太田市大字内ヶ島字天神160514号
●指定年月日 昭和16年(1941)11月27日

別名 男体山とも呼ばれ、東日本最大、全国でも27.8位の規模を誇る大前方後円墳である。

墳丘の全長210m、後円部直径120m、同高さ16.8m、前方部前幅126m、同高さ12mである。

周囲には二重の周堀が巡らされ、墓域は長さ364m、幅288mに及び、また北東と西に陪塚を持つ。

墳丘は三段築造で、表面を渡良瀬川系の川原石で葺き上げている。

主幹部は壑穴式であるが、既に盗掘を受けており、後円部南側付近に大型の長持形石棺の一部が露出している。墳丘部及び中堤帯には円筒埴輪が、また後円部墳頂には器財埴輪が樹立していたと考えられている。

築造時期は5世紀中頃と推定され、被葬者は畿内系和政権と強いつながりを持っていた毛野園の大首長と考えられている。

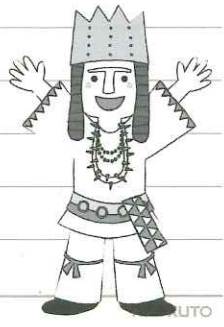
平成元年3月31日

太田市教育委員会

はいちやう
*陪塚

- ・《主人の墓に伴う従者の墓の意》
- ・大きな墓のそばにある小さな墓
- ・副墓口を納めるだけのものがある

〈古墳からの出土遺物〉



Q石棺とは？

A.石製の棺 日本では弥生時代に箱式のもの、古墳時代には箱式のほか、割竹形・舟形・長持形・家形などがある。

Q長持形石棺とは？

A.東日本で「王者の石棺」とも称される王墓に特有の棺である長持形石棺が発掘された。

天神山古墳のほかにも、お富士山古墳があるのみ。

大王の古墳に見られる長持形石棺からヤマト政権とつながりを持つ、いた毛野国、あるいは利根川東側域の大王と推測できます。



Q前方後円墳はなぜ鍵穴の形なのか？

A.鍵形の様な形の古墳を前方後円墳と呼ぶ。

丸い形の岡と四角形の岡がっつなついたような形をしています。後ろの丸い形を丸いと考え、このように名付けられた。

なぜこのような形をしているかは、江戸時代から色々な学説が出されている。丸い形の円墳と四角い形の方墳が合わさったとする説や中国の墓のあるものに似ているという説などがあるが、現在のところ有力な説は以下のようなものがある。

前方後円墳があらわれる前の時代、すなわち弥生時代に土を盛り上げて、周囲に堀をめぐらせた墓がありました。

これらの中で、堀の一部がとられて陸の橋となったものもあらわれます。この陸の橋の部分を発掘すると、「おまつり」に使った土器が発見されることもあり、ここで死者を送る「まつり」が行われたと考えられています。

弥生時代にあった丸い形の堀をめぐらせた墓の堀がとられて陸の橋の部分が発達して「鍵穴」の形になったという事です。

長持形石棺が出土した地域			
関東地方	27所	中国地方	47所
近畿地方	20所	九州地方	27所

女体山古墳

天神山古墳と隣の古墳の関係



帆立貝形古墳

天神山古墳の隣に同じ時期に同じ向きで造られている女体山古墳。帆立貝式、という珍しい形のため全長106mと非常に大きい。造られた時期は5世紀中頃。



同じ時期に同じ方向を向いて造られていることから、2つの古墳の葬られた人たちの間には密接な関係があったと考えられている。

<実際に見に行いた写真>



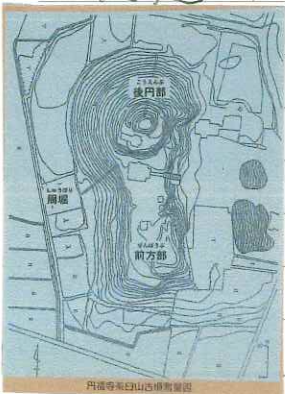
上下二段の構築で側面には墳石が施され一重の堀で囲まれていた。後円部の南側には帆立貝式古墳の特徴である前方部が小さい「造出」となっています。この造出は祭祀などを行う場所としていました。帆立貝式前方後円墳としては全国で二番目の大きさで、その後部は直径85m、高さ16mあります。

円福寺茶臼山古墳

<群馬第3位>

(平成12年11月1日 国史跡指定)

由良台地の西縁にある全長約168m、後円部径96m、高さ14m。前方部先端幅42m、高さ9mの前方後円墳。5世紀前半に造られた。周堀は馬蹄形をなくしており、前方部側外すままっています。前方部は2段、後円部は3段に作られており、各平坦面には埴輪が造っていたものと想定されています。墳丘表面は葺石されていたものと想定されています。埋葬施設や副葬品等の実態は明らかではありません。



南上空から見た円福寺茶臼山古墳

<実際に見に行いた写真>



後内部分二所神社」が、くひれ部には「円福寺千手観音堂」前方部には「円福寺馬頭観世音堂」や「石堂」、そして墳丘裾には「円福寺本堂」が建てられている。

また前方部東側裾部には「云新田氏累代」の墓があります。これらに伴い墳丘は一部削られて本来の形状が失われています。

上毛野を治めた大首長の墓

新田氏4代 - 新田 政義が鎌倉時代に創建したと伝えられる円福寺・十二所神社の境内にあり古墳前方部には新田氏累代の墓がある。



円福寺茶臼山古墳にある看板

新田義貞像



実際に見に行、た写真
新田荘歴史資料館



古墳のスタイルで権力がわかる

古墳のスタイルと規模で権力の格付けが分かり、各国の権力者がどれくらいの人物かがわかるとされている。

この格付けは大和政権が決めたそうです。

- 1位: 前方後円墳
- 2位: 前方後方墳
- 3位: 円墳
- 4位: 方墳

天皇以外の古墳は、前方後円墳だと大和王権に忠誠を誓う地方の豪族にだけ、前方後円墳の造立と埋葬を許されていたこととなります。

Q. 大きさの違いは何?

A. 古墳には様々な大きさの形のものがあります。実は古墳の大きさは“権力”や“身の重さ”を表わしているそうです。その中で前方後円墳は最も有力な王や豪族の墓だ”と

Q. なぜ作られたのか?

A. 3世紀の終わりに7世紀にかけて盛んにつくられた古墳。その地域を支配していた王や豪族が死んだ後も自分の力を示すために、墓としてつくらせたもの。

大型の前方後円墳はヤマト王権の許可がなければ造ることができない特別な存在

古墳はどうやってつくったのか?

王や首長が埋葬される巨大古墳になると、本人たちから生きている時から計画し築かれ始めます。人の死はいつおこなうかわからないので準備が必要。素人ではつくれないので、専門的な知識を持った技術者によって計画的につくられる。

①土地を決める。

古墳はただつくるだけでなく、国内外の人の目につくような交通の要所や目立つ場所を選ぶ。

土地盤がしっかりしていて、物資の運搬しやすいのも重要。

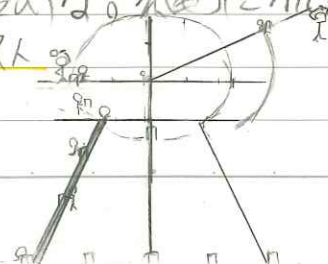
②設計図や模型をつくる。

皆が同じ情報を共有し、完成を目指して作業するには完成イメージを共有することが肝心です。中には100分の1ほどの模型をつくらせたと考える研究者もいるそうです。

③縄を張り形を決定する。

イメージが共有できたら技術者の指示のもと建設現場に縄を張って区画を始める。縄に杭打ちをしながら輪郭を整えていく。

③イメージラスト



④ 土を盛り上げる

繩の通りに溝を掘り、土を盛り上げていく。
最初に外側を土手状に高くし、その後内側を土で埋めていく。

土の盛り方

- ① 外側に同じ高さの土手をつくる。
- ② 間に土を充填し平らにする。
- ③ 土手 → 充填を繰り返す。



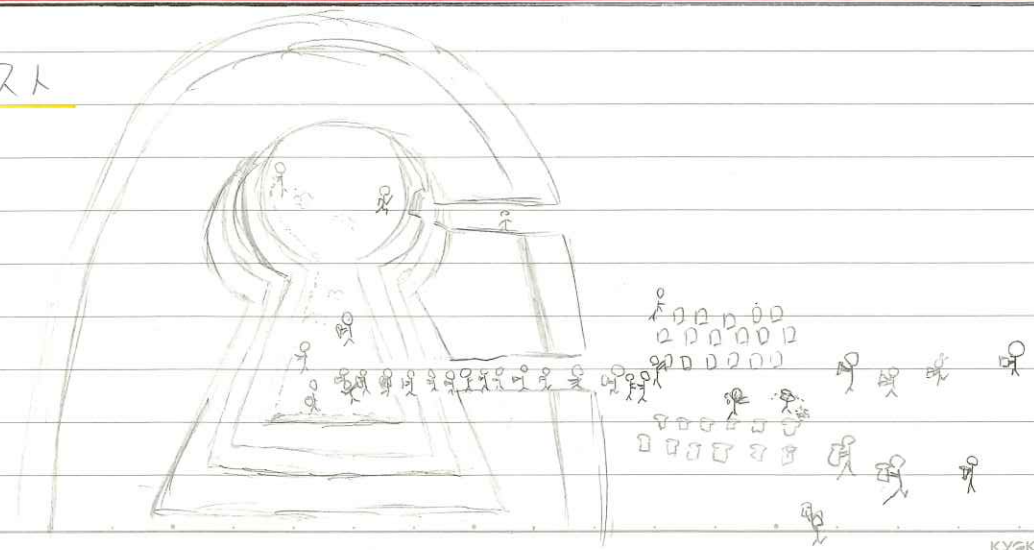
⑤ 形の調整と葦石貼り

設計図通りに形ができれば、集めてきた葦石を貼る作業に入ります。

⑥ 埴輪をつくり、設置する

土の盛り上げ作業を行いなから、埴輪工房で埴輪製作が行われていた。出来上がった埴輪は壊れないように慎重に運び込まれます。何種類もある埴輪を規律をもって並べていきます。こうして技術者を中心に、古墳は築かれていきました。

⑥のイメージイラスト



まとめ

- ・古墳とは土地を治めていた権力者のために作られたお墓。権力者の権威を表すためのもの。
- ・古墳のスタイルと規模で権力の格付けがわかる。
- ・ヤマト王権に忠誠を誓う地方の豪族だけが、前方後円墳の造立と埋葬を許されていた。

感想

古墳について調べて、古墳時代のことを深く知ることができました。

群馬県に住んでいるのに、東国文化についてまったく知りませんでした。

東国文化を知らないのはもったいないのに、知らない人がたくさんいると思うので、魅力を知らない人達に伝えたいと思いました。

実際に太田天神山古墳などに行ってみました。

大きな古墳だったことはわかりましたが、

近くから見ると前方後円墳の形はよくわかりませんでした。

太田天神山古墳は国の史跡でありながらも土地や道の開発のために一部の堀が無くなってしまっている。

古墳周辺の道は整備されておらず、群馬県最大の古墳がこのような状態で放置されていることがとても残念でした。

まだ知らない古墳や調べていない古墳がたくさんあるので、また実際に行ってみたいと思います。

古墳の形や大きさにも種類があり、それぞれに意味がある事にも興味が湧きました。

これから群馬県の歴史について広い視野を持つながら、知識をさらに深めていきたいと思っています。

参考文献 - 引用文献

- 太田市新田荘歴史資料館〈7月31日見学〉
- かみつけの里博物館〈8月5日見学〉
- 東国文化 富り読み本
- 東国文化の中心地「古墳大国」ぐんまに迫る 2
- ニッポン旅 マガジン
- ぐんま東国文化 テレビ
- 太田市古墳 パンフレット
- コトバンク
- ウィキペディア
- 栃木県埋蔵文化財センター
- 知られざる古墳ライフ
- 太田市教育委員会 教育部 文化財課 パンフレット
- 関東・歴史旅行情報
- goo 辞書
- 日本史事典.com